繪本江戸爵
中

四小桃
大原ざこ孫
ほゞくと
しらさ
んだせ乃
西王母
さゝぶふ
そろ
ふと
せと
見へぬあり

田を行く 畔を面白くと
荷造早文
田をかりも 畔面白く 人も 早乙女も 早稲も晩稲も 同し 様附

短氣ハそん氣
菜種蝶羽
氣みぢかハ ぎんづる そんじや とにかくに むねをさすつて くらせ世中

阿弥陀の光も銭ほ第
ぢゃ和空也
光ある弥陀もらんきん銭ほ第
いちもん一銭おしひ人や

鬼乃留守はせんたく西の海へおひやくしぬる鬼は外あらひ出てからかれ来る

金孫小生孫

鰯の頭も信心から信なればいはさしぬる赤いはし鬼もおそれをくや

田原船積

猪食さ
むらひ
大屋裏住
吉ゝゐさ
むさゝひよ
ずぞれ
し
山子ぢやば
凡坊
さんと
人の
いふ
らん

紫じるより
鹿が姿ひ
鹿嶌
尾長
取ながる
ぢらう
仕られ
こづき
苦ハ
あんじる
よりも
うむの
やせ
さよ

麻耳人水

烏波一葉

ほろされ
麻耳へ
このみ
まくらよ
月ハ
かさ
ふく
茶つらん
うと
こる

鳥ハなれ
ておとく
惜まきぬ
錦出今利
ほの
らき
鳥れ
きハ
わく
かして
親らく
大つロ乃
かく
さよ

牛ハ牛づれ
御厨未吉
ゆ川
みえても
おほらの
とゝぬ
つき合よ
角の字ハ
ふき
牛
つまれ
里